

THE RACING PIGEON

3

2020 MARCH

Vol. 732

レース鳩



特集／2019年度 総合表彰式&懇親会を開催!

協会最高賞トリプルディスクッション第1弾!

“インサイト”(洞察力)の最高賞

「第17回全日本ゼネラルCH賞座談会」

“令和最初”の「日本一の1年」スタート!



令和元年度

日本エースピジョン賞全国1位

“マリントップエース” 18HA14063 BCW ♀

飛田輝明鳩舎作翔(茨城連盟・茨城北連合会)

*19年春 茨城連盟桜花賞 354羽中総合 6位(実距離920.626K/分速1393.410m)

茨城連盟地区N 3,024羽中総合28位(実距離569.163K/分速1146.158m)

茨城連盟Rg 3,758羽中総合51位(実距離380.434K/分速1350.656m)

令和元年度ベルギー王立愛鳩家協会会長賞連盟1位

従姉/平成27年度日本エースピジョン賞全国8位



15年度日本AP賞
全国8位 マリンエースレディー

14HB17183 B ♀ 飛田輝明鳩舎 作翔
*15年東日本種内GN総合13位・連盟4位
11HB04005 PBW 飛田作
全兄弟/06年ジャパンカップ総合10位
12HB11055 B 小沼・飛田共同作
全兄弟/“マリントップエース”の母
[12HB11010]

19年度日本エースビジョン賞全国1位

“マリントップエース”
18HA14063 BCW ♀ 飛田輝明 作翔
*翔歴は表紙参照
14HF05969 BCW 菊池祐三 作
“リヒテクラス256号” NL04-1920256 BC
R・ゲールドインク 作 孫/東日本種内GN連盟優勝他
ブリュヘマン兄弟作(バルセロナ8位“ミラ”の同系)×00年サンパンサン優勝
04HF09793 BC 菊池 作出 上野秀雄 使翔
06年東東連盟地区N700K総合2位
“キュート号”(バルセロナN優勝&3位“バルセロナI”の直仔
×上記“バルセロナI”の全妹“バルセロナ113”)の孫×孫
12HB11010 BW 飛田輝明・小沼良幸共同 作
全兄弟の直仔/“マリネースレディー”(左掲)、
15年北関東ブロック連盟三地区GP総合7位
全兄弟の孫/19年東日本種内GN1100K地帯5位
“ヨング・ベルジュラック”01HB26187 BC 飛田 作
ベルジュラックN7,873羽中優勝(ヤンセン系)の直仔
“海洋マザー”03HB19318 B 小沼 作
母/99HB15550(東日本種内GN総合49位、総合57位/
“ジッター”系×カイパー兄弟の“バルセロナI”の直系)

表紙
の
鳩

19年度日本エースビジョン賞全国1位受賞・飛田輝明鳩舎(茨城北連合会)

伏兵ににして必然として、最高傑作となった
令和最初の「日本一のレース鳩」

カイパー系を濃縮
血統通りに「自ずと」覚醒!

令和という新時代を迎えた昨年、飛田輝明氏は国内最大会員数を誇る北関東ブロック連盟初となる日本AP賞の全国1位を射止めた。今回3度目の受賞で頂点を射止めたわけだが、この最高の名誉に対し結果的に獲得できただけ」と同氏のコメントはやや淡泊である。そもそもペアリング自体、自然交配であり、ブレイクを果たず桜花賞まで際立った成績もなし。しかもGPで翌日帰還だったことで、最後まで「1つのコマ」としか認識していなかったようだ。ところが彼女の軌跡を改めて辿ってみると、「伏兵」ではないことがわかる。R8で1%台、地区Nでは1%内に入賞しており、2レースとも自鳩舎3番手で打刻。むしろGP終了時点で飛田氏が目標としている「日本優秀鳩舎賞」のナンバーワンポイントゲッターだったのだ。

血統面でも「落ちこぼれ」どころか、「1000Kのスペシャリスト」のような内容である。父方にはブリュヘマン兄弟経由のオーステンライク系とハーゲンス兄弟系、ファンヘー

ルの「ドル」(*サンバンサンN、ダックスN各3位)やテレーンの「ブアイレマトン」(*オランダマラトン賞1位)と「ド・10」(*サンバンサンN3位&4位)、そしてカイパー兄弟の「バルセロナI」(*バルセロナN優勝&3位)、「バルセロナII」(*バルセロナN2位)、「バルセロナIII」(*バルセロナN3位)を生み出したゴールデロナカップル「ゾーンズピン」(*ファンヴァンローイの「ド・90」の直仔×「スピン」×H69-1257869)(*853ヴェッジエンス「重近親」と構成。オランダ超長距離界の誇る超銘鳩の粋が集約されている。母鳩は飛田氏にとって初の日本AP賞受賞鳩にして東日本種内GN総合13位鳩「マリネースレディー」の叔母「ヨング・ベルジュラック」×「海洋マザー」の娘。結果、この交配は2羽の日本AP賞を生み出した他、「マリネースレディー」全兄弟の直仔が昨年の東日本種内GN1100K地帯5位に入賞したことに



★総合表彰式で家族と共に喜びをわかちあった飛田輝明氏。同氏にとって「2回目の日本一」をもたらしたヒロインは「伏兵」であったが、血統的には「然るべき」であった。

り、アタリであることを証明したといつて過言ではない。また「海洋マザー」には、カイパー兄弟やファンオープン系の他になんと「ジッター」の血が絡んでいたことが新たに判明。カイパー兄弟系もまたゴールデンカップルの直系であったことの裏付けがとれ、「マリントップエース」自身、最も活躍鳩を生み出す配合パターン「異種同系交配」によって作り出されていることが立証された。そのためか、19年に改めて意図的に作りだされた「マリネースレディー」の全妹が昨秋の1500Kで優勝。母方祖父母のあたりが継承されているような成果だ。そして飛田氏もこの配合に対し、「対長距離」、そして「対GN」用にその期待度は大きくなっているとのことだ。ともあれ、「マリントップエース」は安定感に加え、桜花賞の成績が最高位であることから血統通りに、つまり必然の成果を「自ずと」収めている。

「正解はレース鳩が教えてくれる」。ビジョンスポーツ界の成功者の多くが口にする「金言」を伏兵でありながら飛田氏の最高傑作となつた令和最初の「日本一のレース鳩」は、見事なまでに体現した。

飛田輝明鳩舎(茨城北連合会)